

**FY2023 / 2024年3月期 決算説明資料**

2024年5月16日

株式会社日本製鋼所  
代表取締役社長 松尾 敏夫

## 【ご注意】

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## PART I

### 2024年3月期 実績

- 05 受注高・売上高・利益の状況
- 06 営業利益増減要因
- 07 セグメント別
- 08 産業機械事業
- 09 素形材・エンジニアリング事業

## PART II

### 2025年3月期 通期計画

- 11 受注高・売上高・利益の計画
- 12 営業利益増減要因
- 13 セグメント別
- 14 産業機械事業
- 15 素形材・エンジニアリング事業
- 16 受注残高の推移と予想
- 17 設備投資・減価償却費、キャッシュ・フロー、財務体質、研究開発費の状況

## PART III

### 事業概況

- 20 産業機械事業 主要製品の今期受注概況
- 21 素形材エンジニアリング事業 主要製品の今期受注概況
- 22 樹脂製造機械の状況
- 23 フィルム・シート製造装置の状況
- 24 生産能力増強に向けた取り組みの状況
- 25 電力・原子力製品の状況
- 26 防衛関連製品の概要と状況
- 27 新中計：JGP2028の配当方針と今期配当

### 参考資料：

事業セグメントの構成と主要製品 / 売上高・営業利益・純利益の推移 / 主要な財産状況・キャッシュ・フローの推移 / Purposeを起点とする企業理念体系“Our Philosophy”

[PART I]

# 2024年3月期 実績

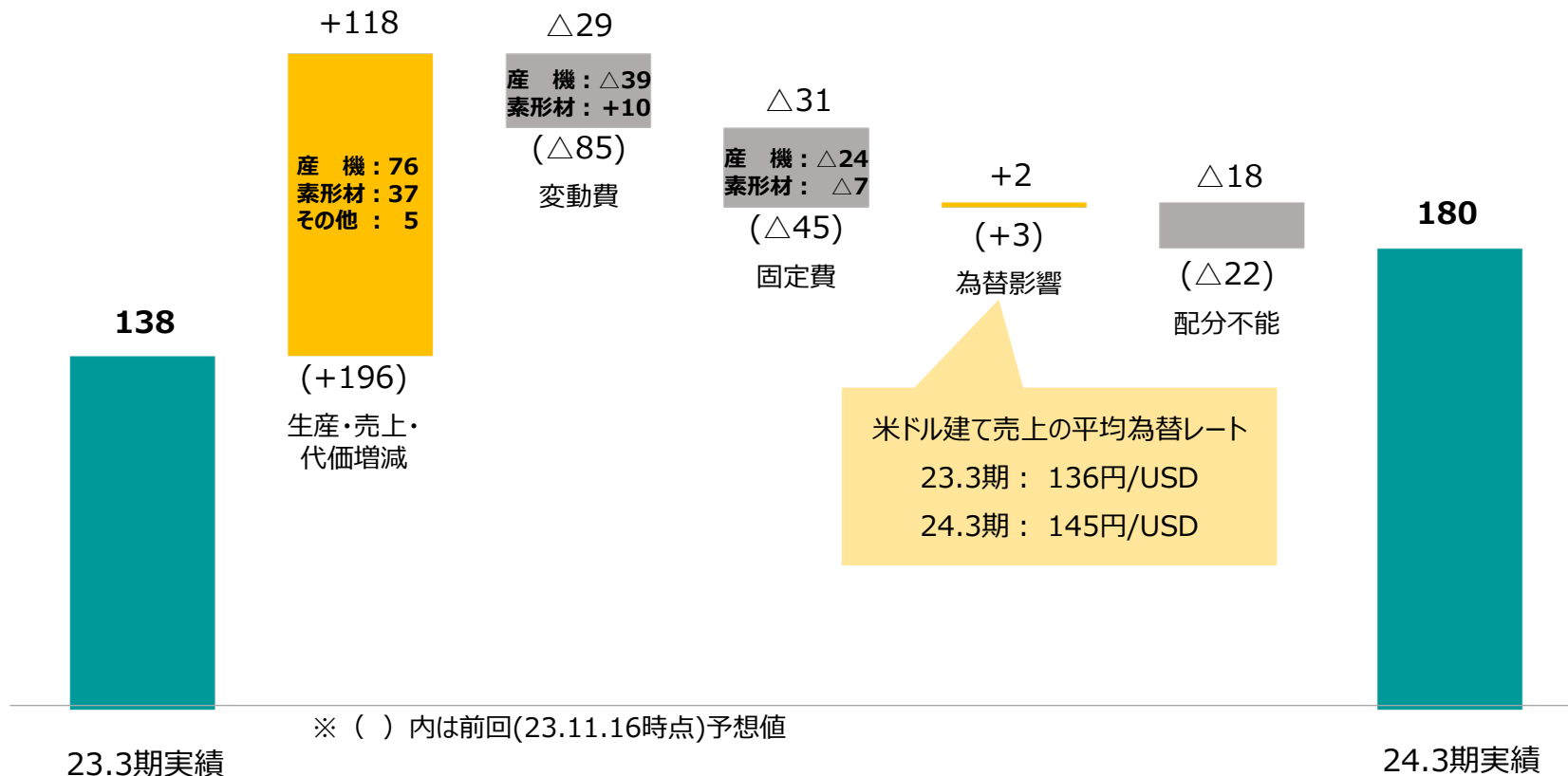
受注高・売上高・利益ともに前期を上回る  
受注高・売上高は2期連続で過去最高を更新

(単位：億円)

	23.3期 実績 (A)	24.3期		前期比 (C)-(A)	前回予想比 (C)-(B)
		前回予想 (23.11.16時点) (B)	実績 (C)		
受注高	2,760	3,380	<b>3,349</b>	589	△ 31
売上高	2,387	2,800	<b>2,525</b>	138	△ 275
営業利益 (率)	138 5.8%	185 6.6%	<b>180 7.1%</b>	42	△ 5
経常利益	149	190	<b>199</b>	50	9
純利益	119	140	<b>142</b>	23	2
1株当たり 純利益 (円)	162.75	190.26	<b>194.02</b>	31.27	3.76
1株当たり 配当金 (円)	58.0	58.0	<b>59.0</b>	1.0	1.0

## 売上増と代価改善により、前期比42億円増益

(単位：億円)



## 両セグメントとも前期比増収・増益 素形材・エンジニアリング事業は黒字に転換

### 産業機械事業

(単位：億円)

	23.3期 実績 (A)	24.3期		前期比 (C)-(A)	前回予想比 (C)-(B)
		前回予想 (23.11.16時点) (B)	実績 (C)		
受注高	2,331	2,840	<b>2,774</b>	443	△ 66
売上高	2,029	2,310	<b>2,083</b>	54	△ 227
営業利益 (率)	189 9.3%	220 9.5%	<b>204 9.8%</b>	15	△ 16

### 素形材・エンジニアリング事業

(単位：億円)

	23.3期 実績 (A)	24.3期		前期比 (C)-(A)	前回予想比 (C)-(B)
		前回予想 (23.11.16時点) (B)	実績 (C)		
受注高	411	510	<b>553</b>	142	43
売上高	339	460	<b>419</b>	80	△ 41
営業利益 (率)	△ 8 △ 2.5%	23 5.0%	<b>32 7.7%</b>	40	9

売上高は、樹脂製造・加工機械が牽引し前期を上回る  
受注は、防衛関連機器・その他が伸長し前期比増加

売上高・営業利益

(単位：億円)

	23.3期 実績	24.3期		前期比 (C)-(A)	前回 予想比 (C)-(B)
	(A)	前回予想 (23.11.16時点)	実績		
		(B)	(C)		
樹脂製造・ 加工機械	922	1,120	<b>1,027</b>	105	△ 93
成形機	658	680	<b>587</b>	△ 71	△ 93
防衛関連機器	238	240	<b>241</b>	3	1
その他	211	270	<b>228</b>	17	△ 42
合計	2,029	2,310	<b>2,083</b>	54	△ 227
営業利益	189	220	<b>204</b>	15	△ 16

受注高

(単位：億円)

	23.3期 実績	24.3期		前期比 (F)-(D)	前回 予想比 (F)-(E)
	(D)	前回予想 (23.11.16時点)	実績		
		(E)	(F)		
樹脂製造・ 加工機械	1,073	1,360	<b>1,021</b>	△ 52	△ 339
成形機	654	660	<b>649</b>	△ 5	△ 11
防衛関連機器	361	530	<b>705</b>	344	175
その他	242	290	<b>399</b>	157	109
合計	2,331	2,840	<b>2,774</b>	443	△ 66

\* 従来の『その他』を、『防衛関連機器』と『その他』に分けて表示しております。



素形材製品が伸長し、受注・売上・利益の全てで前期を上回る

売上高・営業利益

(単位：億円)

	23.3期 実績 (A)	24.3期		前期比 (C)-(A)	前回 予想比 (C)-(B)
		前回予想 (23.11.16時点) (B)	実績 (C)		
	素形材製品 (鍛鋼品)	249	340	330	81
エンジニアリング他	90	120	89	△ 1	△ 31
合計	339	460	419	80	△ 41
営業利益	△ 8	23	32	40	9

受注高

(単位：億円)

	23.3期 実績 (D)	24.3期		前期比 (F)-(D)	前回 予想比 (F)-(E)
		前回予想 (23.11.16時点) (E)	実績 (F)		
	素形材製品 (鍛鋼品)	306	440	477	171
エンジニアリング他	105	70	76	△ 29	6
合計	411	510	553	142	43

[PART II]

# 2025年3月期 通期計画

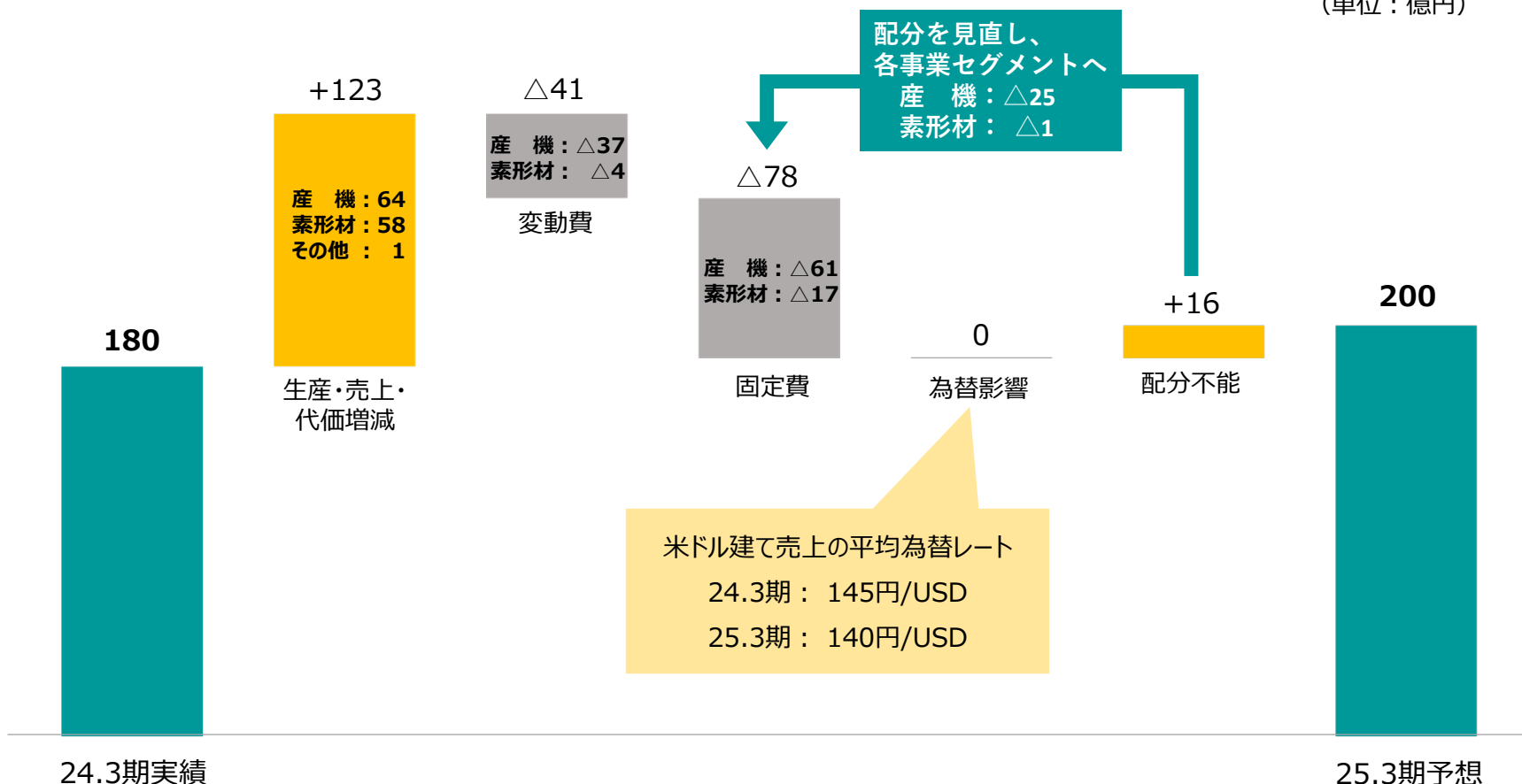
## 受注高・売上高・利益とも前期比伸長の計画

(単位：億円)

	24.3期 実績 (A)	25.3期 通期予想 (B)	前期比 (B)-(A)
受注高	3,349	3,750	401
売上高	2,525	2,650	125
営業利益 (率)	180 7.1%	200 7.5%	20
経常利益	199	205	6
純利益	142	155	13
1株当たり純利益 (円)	194.02	210.61	16.59
1株当たり 配当金 (円)	59.0	74.0	15.0

生産・売上増、代価改善により、前期比20億円の増益を見込む

(単位：億円)



産業機械セグメントは受注伸長も、利益は費用配分の見直が影響  
素形材セグメントは、受注は堅調、売上・利益は前期比増加

産業機械事業

(単位：億円)

	24.3期 実績 (A)	25.3期 予想 (B)	前期比 (B)-(A)
受注高	2,774	3,220	446
売上高	2,083	2,100	17
営業利益 (率)	204 9.8%	170 8.1%	△ 34

素形材・エンジニアリング事業

(単位：億円)

	24.3期 実績 (A)	25.3期 予想 (B)	前期比 (B)-(A)
受注高	553	495	△ 58
売上高	419	515	96
営業利益 (率)	32 7.7%	69 13.4%	37

売上高は、樹脂製造・加工機械は納期の狭間、その他の製品が増加し伸長  
受注高は、防衛関連機器を中心に伸長を継続

	売上高・営業利益			受注高		
	24.3期 実績 (A)	25.3期 予想 (B)	前期比 (B)-(A)	24.3期 実績 (C)	25.3期 予想 (D)	前期比 (D)-(C)
	(単位：億円)			(単位：億円)		
樹脂製造・ 加工機械	1,027	890	△ 137	1,021	1,080	59
成形機	587	630	43	649	680	31
防衛関連機器	241	290	49	705	1,130	425
その他	228	290	62	399	330	△ 69
合計	2,083	2,100	17	2,774	3,220	446
営業利益	204	170	△ 34			

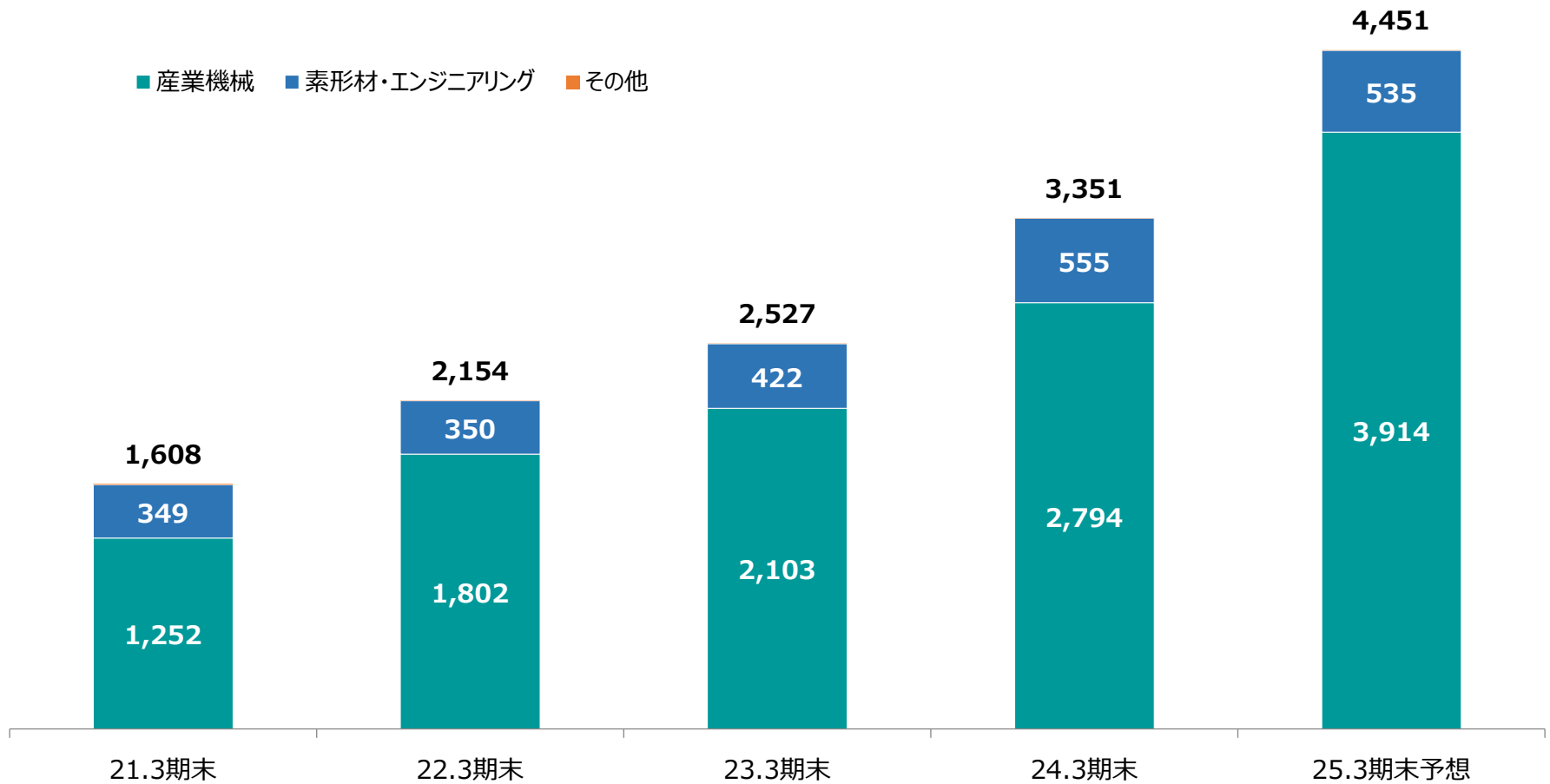
売上高は、好調な受注を背景に前期比増加の見込み  
 受注高は、原子力の反動減はあるも市場は堅調、高水準を維持

売上高・営業利益				受注高		
	(単位：億円)			(単位：億円)		
	24.3期 実績 (A)	25.3期 予想 (B)	前期比 (B)-(A)	24.3期 実績 (C)	25.3期 予想 (D)	前期比 (D)-(C)
素形材製品 (鑄鍛鋼品)	330	422	92	477	395	△ 82
エンジニアリング他	89	93	4	76	100	24
合計	419	515	96	553	495	△ 58
営業利益	32	69	37			

## セグメント別受注残高の推移

(単位：億円)

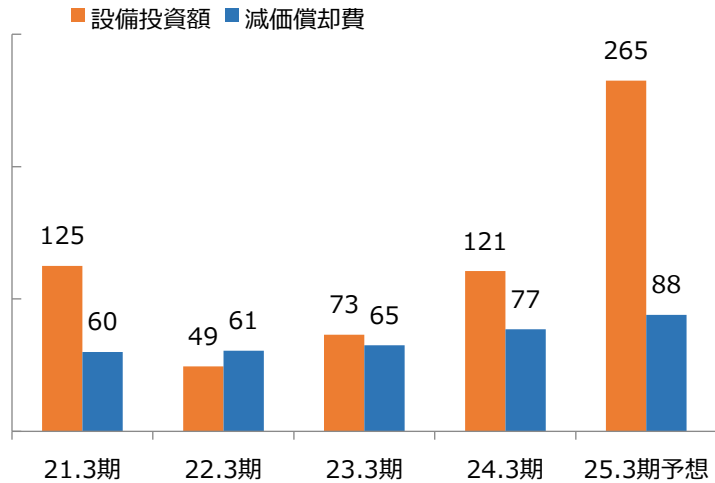
■ 産業機械 ■ 素形材・エンジニアリング ■ その他





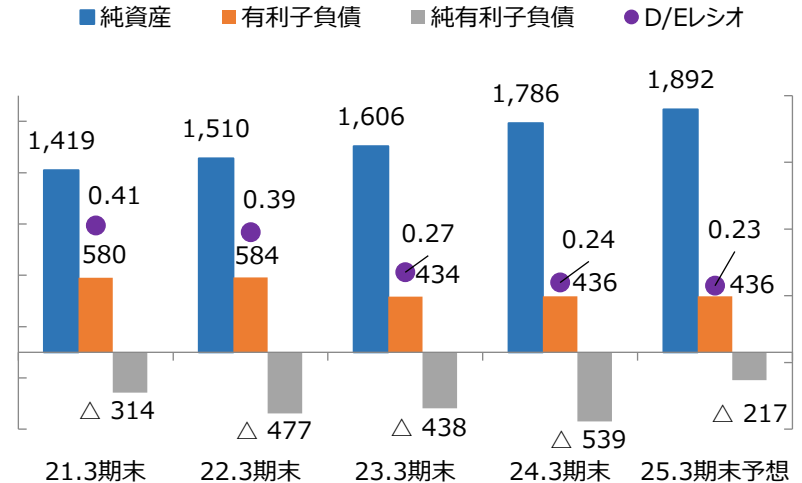
# 2025年3月期：設備投資・減価償却費、キャッシュ・フロー、財務体質、研究開発費の状況

## 設備投資・減価償却費の状況

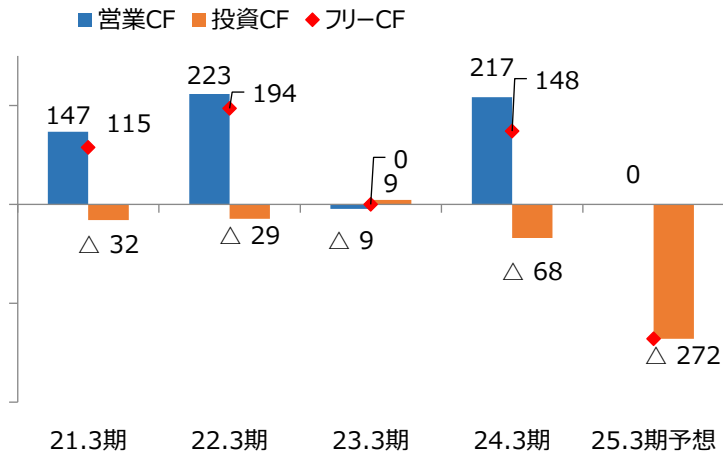


## 財務体質の状況

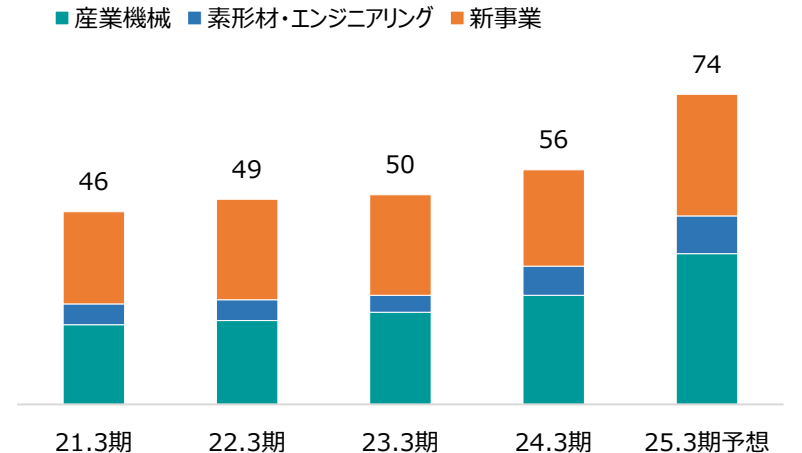
(単位：億円)



## キャッシュ・フローの状況



## 研究開発費の状況



## [PART III]

# 事業概況

## 産業機械事業 主要製品の今期受注概況

産業機械事業	景況感 (前期対比)	受注環境
造粒機		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 需要を牽引している中国に他の地域も加わり、好調な市況が継続。</li> </ul>
二軸混練押出機		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高機能エンジニアリングプラスチック需要が増加基調。</li> <li>● 次世代樹脂開発、ケミカルリサイクルなど将来に向けた投資は増加。</li> </ul>
フィルム・シート製造装置		<ul style="list-style-type: none"> <li>● EV用セパレータフィルム向けは、北米での投資が始まるほか、欧州での需要増に期待。中国での投資減速、米国での大統領選の結果見極めを受けたスケジュール遅延の可能性を注視。</li> <li>● 機能材・包材向け設備は、停滞が続くもパワー半導体・EV向けの電子素材関係で引き合い強まる。</li> </ul>
アフターサービス		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中国に加え、インド・中東などでの拡販を見込む。</li> </ul>
プラスチック成形機		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自動車のモデルチェンジに伴う設備投資需要の回復に期待。</li> <li>● 欧州市場にて油圧から電動への切り替えの動きは継続。</li> </ul>
マグネシウム成形機		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自動車の電動化による車体軽量化ニーズが高まり、マグネシウム部材採用の動きは継続。</li> </ul>
FPD装置		<ul style="list-style-type: none"> <li>● ディスプレイパネル向けG8対応需要の取り込みに加え、パワー半導体製造用へのレーザーアニール装置の適用伸長に期待。</li> </ul>

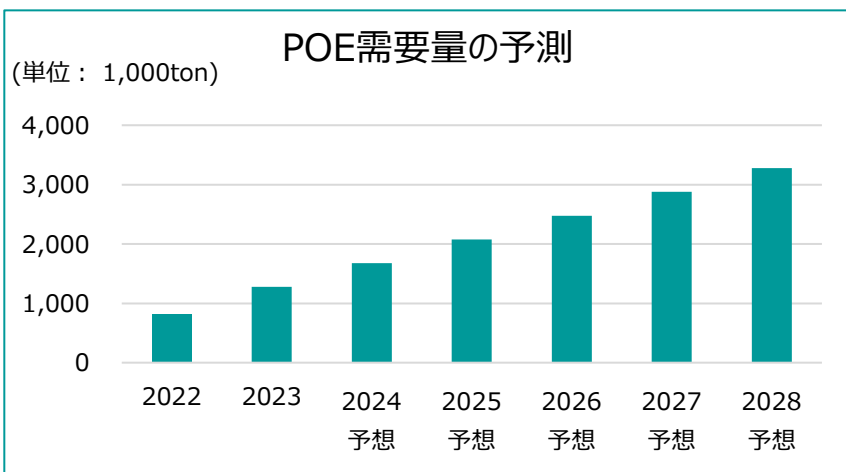
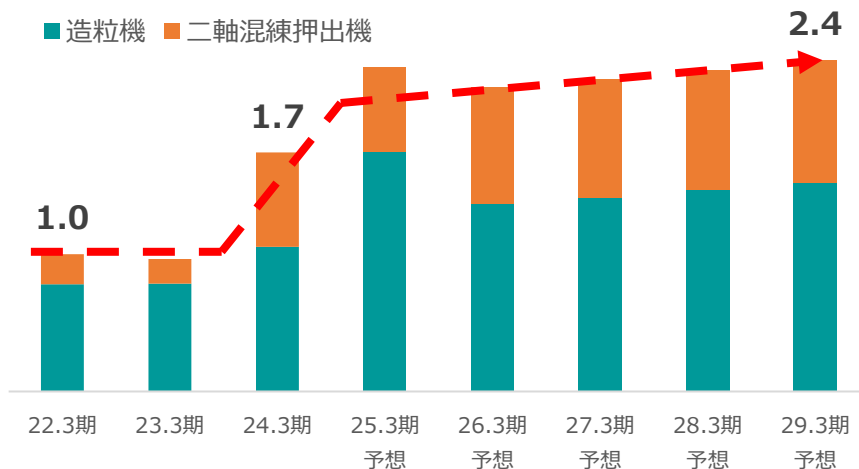
## 素形材・エンジニアリング事業 主要製品の今期受注概況

素形材・エンジニアリング事業	景況感 (前期対比)	受注環境
素形材製品		<ul style="list-style-type: none"><li>● 電力製品等、大型鍛鋼品の需要は堅調に推移。</li><li>● 欧州が牽引し原子力発電所建設計画は具体化が進む。</li></ul>
エンジニアリング他		<ul style="list-style-type: none"><li>● プラント改修工事等に期待</li></ul>

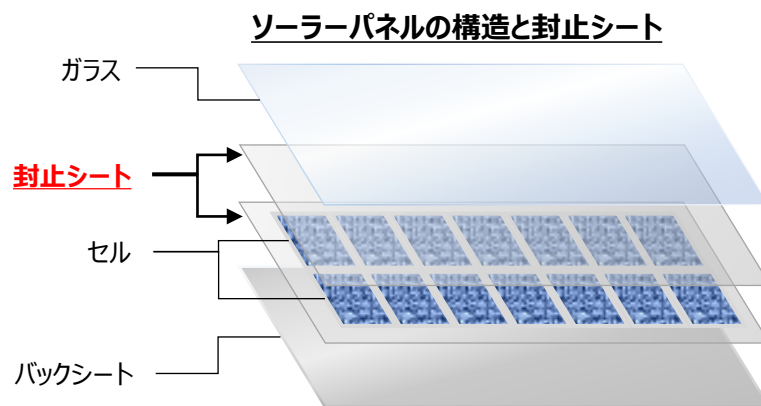
## プラスチック需要増加を背景に好調維持、生産力強化で需要増に対応

- 人口増加と経済成長を背景とした世界のプラスチック需要増加基調に変化は無い。
- 中国での、プラスチック原料の国産化に向けた設備投資は継続。加えて、インドや中東などの新興国にても、経済成長に伴いプラスチック需要が拡大、原料の国産化に向けた動きが見られる。
- ソーラーパネルの封止材原料として、耐食性に優れたPOE（ポリオレフィンエラストマー）の需要が増大の見通し。再生可能エネルギーの導入増加を背景に、中型～超大型二軸混練押出機の受注が増加基調。

樹脂製造機械（造粒機＋二軸混練押出機）売上高推移見通し  
（指数：22.3期＝1.0）

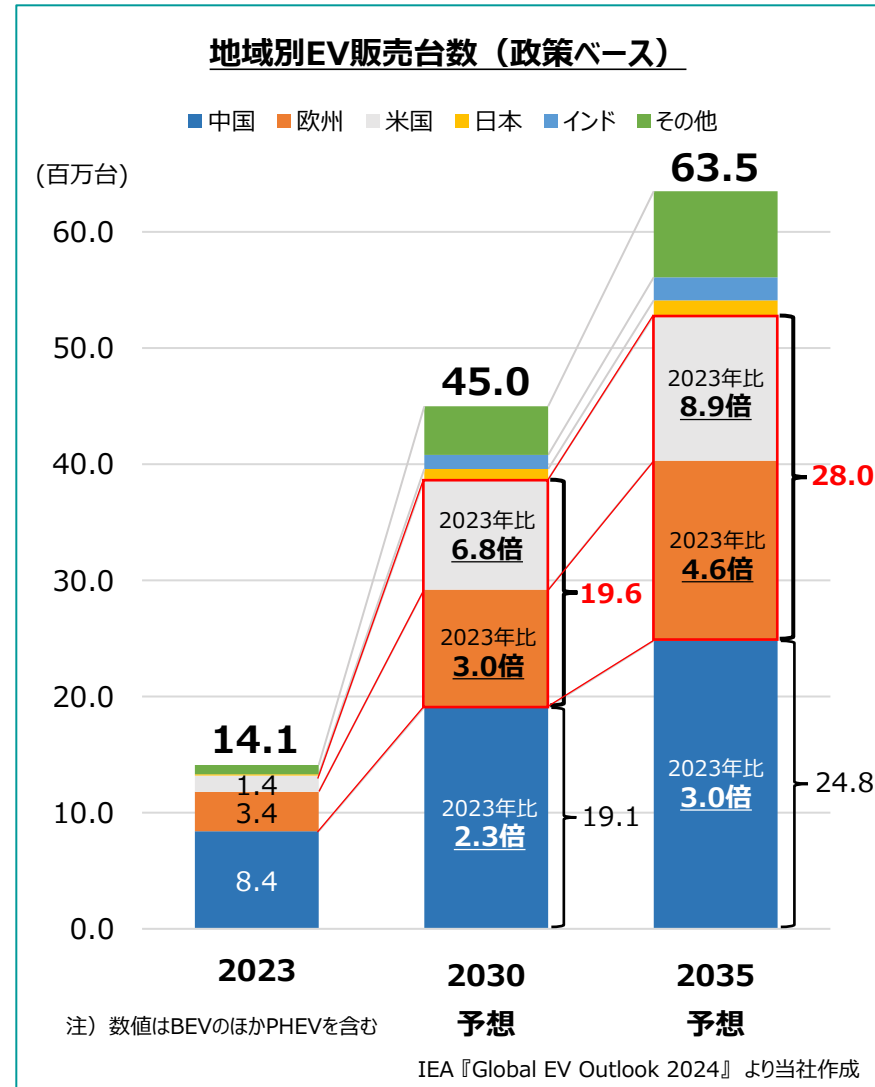
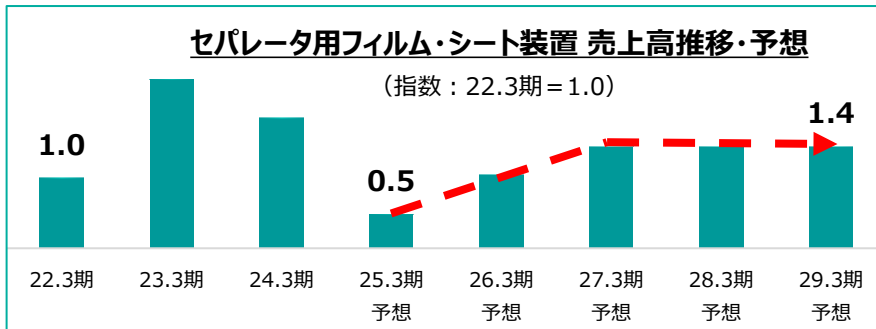


(各種資料より当社作成)



## EV用バッテリー需要は中長期で増加と予測も、足下は調整局面

- EVの成長率は足元で調整局面に入っているが、中長期の成長基調は継続。但し、北米・欧州・中国の3極化が進む。
- 中国では、景気減速・供給過剰等を背景にEVメーカー間の競争が激化。新規自動車販売におけるEVのシェア増加は続くも、新規投資は停滞。
- 北米では、域内で中国に頼らないサプライチェーン構築に向けた動き。他方、米国大統領選挙の影響見極め姿勢は懸念。
- 当社のバッテリー用セパレータフィルム製造装置の売上は、中長期的なEV増加を見据えた設備投資が継続し、今後も一定水準を維持。機能材包材向けなど、セパレータ以外の用途での、フィルム・シート装置・アフターサービス強化を進める。

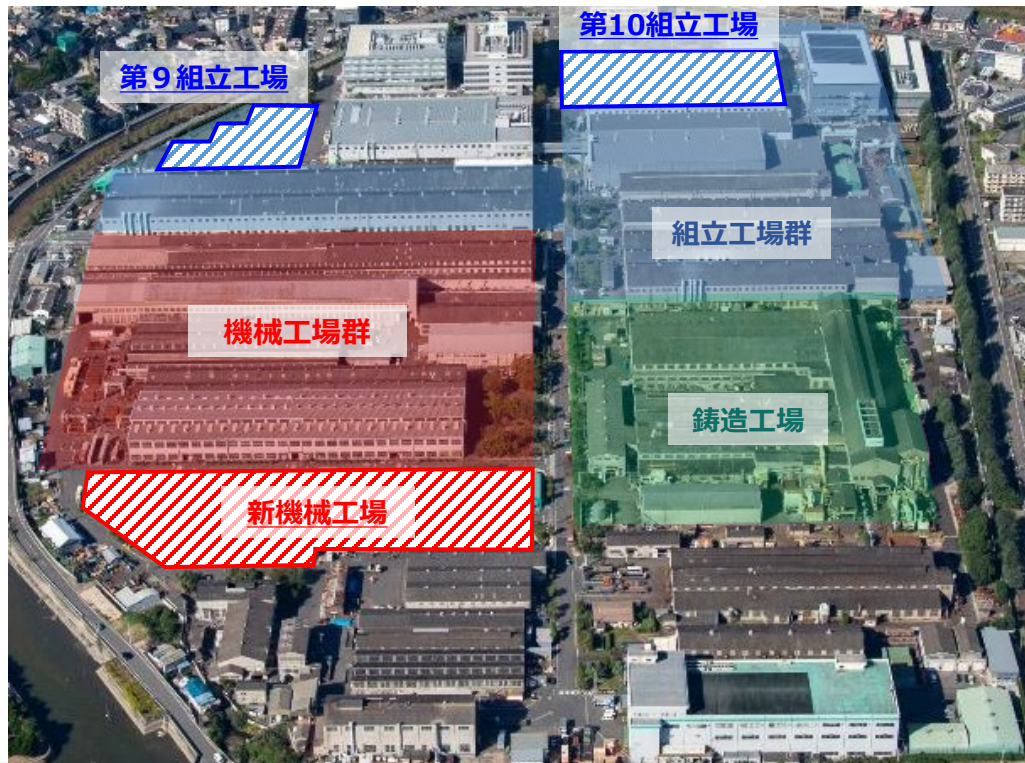


## スクラップ&ビルドで旺盛な需要に対応、内製化率を向上する

- 樹脂機械の生産能力増強と効率化、大型機の組立能力向上に向けた広島製作所の設備投資は順調に進捗。
  - 現在建設中の第10組立工場の完成をもって組立工場関係の設備投資は一巡
- 部品の機械加工を行う機械工場としては広島で80年ぶりの新規建設に着手。新工場はスマートファクトリー化に向けたモデル工場との位置付け。
  - 最新設備を導入、製品・設備・人の情報が見える化し、生産性を向上  
要員数を増やさず**約3割**能力アップを目指す
- 部品加工能力を向上し、旺盛な需要に応えつつ内製化比率を高め、収益改善を図る。
- 太陽光発電設備を導入し、CO2排出量と電力コストを削減。

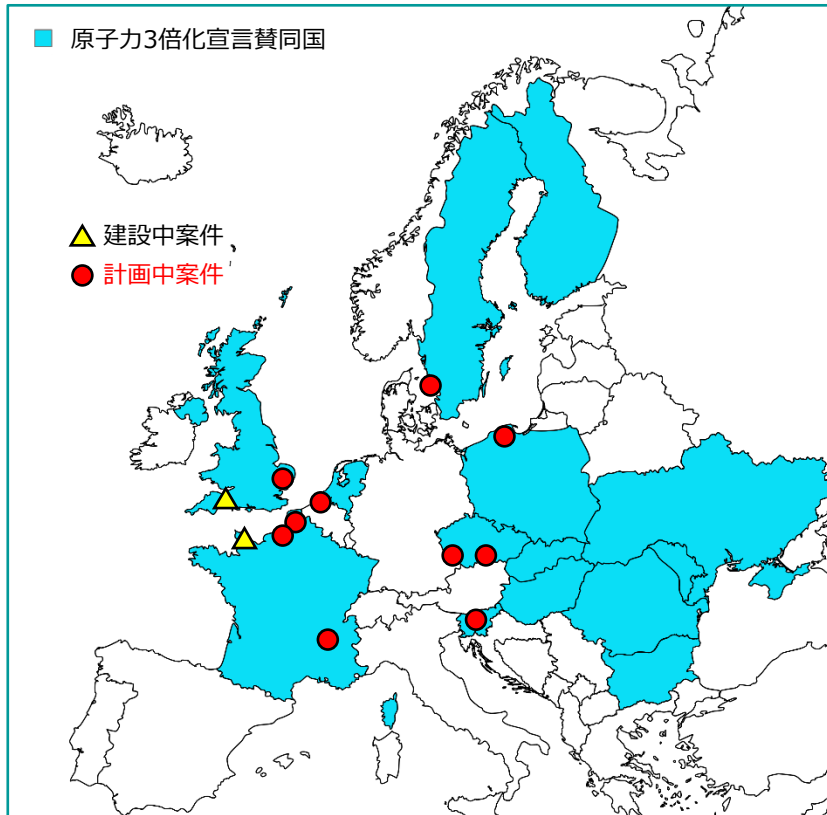
広島製作所における投資の進捗状況と見通し

	24.3期		25.3期		26.3期	
	下期	上期	下期	上期	下期	上期
第9組立工場	23年10月竣工、稼働開始済					
第10組立工場	建設等				25年1月稼働開始予定	
新機械工場					26年3月竣工予定	



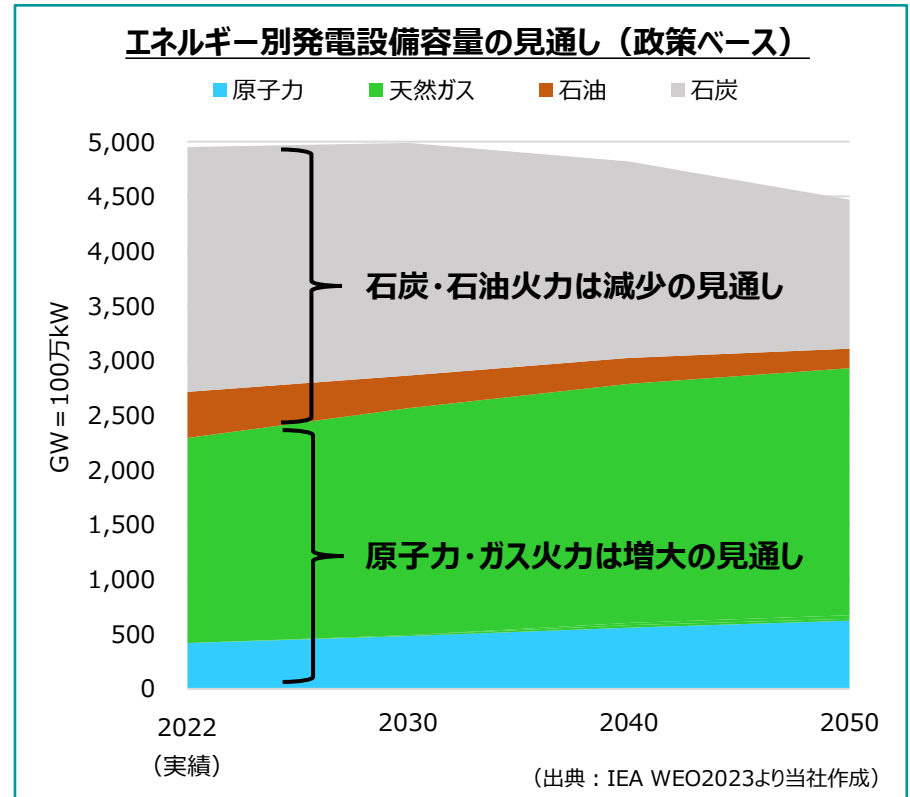
## 欧州における原子力政策の動向

- 2023年12月、有志国による“原子力発電設備容量を2050年までに2020年比で3倍にする有志国による宣言”発表、東欧各国を含む23か国が賛同。
- 仏・英の計画進捗は順調、東欧地域でも旧西側の炉型採用の動きが強まる。



## 電力製品（タービン・発電機部材）の需要は堅調

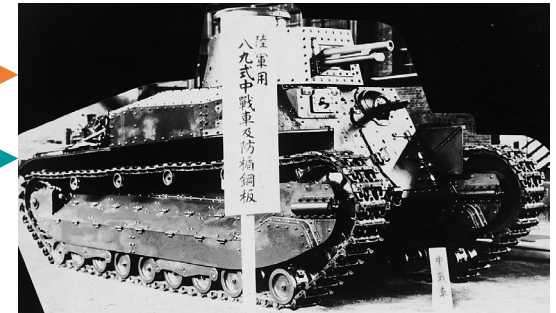
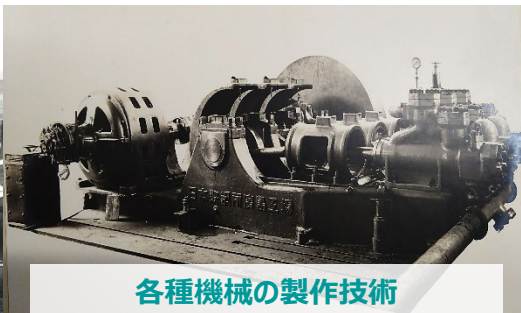
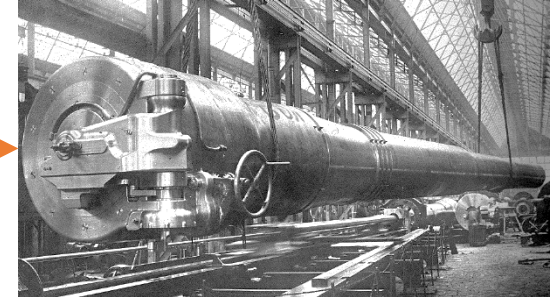
- 脱炭素に向け、石炭火力発電は減少傾向。これを補う現実解として、GTCC(ガスタービン・コンバインドサイクル)等、天然ガス火力発電需要が継続。
- 発電機器の高効率化に向け、大型や耐熱素材等、当社の強みを発揮し需要を取り込む。





## 防衛関連機器事業の概要：沿革

- 1907年、兵器の国産化を目的として北海道室蘭にて創業。  
高品質・大型素材（鋼）の製造技術を確立、各種火砲・防弾鋼板等を製造。



- 1920年、広島製作所を設置。中・小口径火砲に加え、各種機械装置類を製造・組立。

戦前は、民間最大の兵器メーカーとして火砲等を製造。

素材・機械等、火砲製造に必須の技術を確立・蓄積し、各製造拠点の強みを活かし国防に貢献。

## 防衛関連機器事業の概要：戦後～現在

- 戦後も国内唯一の火砲メーカーとして、各種火砲・ミサイル発射機等を製造。  
広島製作所を最終組み立て工場とし、室蘭の素材開発・製造技術を活かし高度な防衛関連機器を供給。

### 生産拠点

広島・室蘭を主拠点とし、防衛関連機器を生産。  
状況に応じ、他の拠点も活用。



### 主要製品

防衛省及び海上保安庁向けに防衛関連機器を納入。



19式装輪自走  
155mmりゅう弾砲



105mm施線砲  
(16式機動戦闘車用)  
(写真：陸上自衛隊HPより引用)



120mm戦車砲  
(10式戦車用)  
(写真：陸上自衛隊HPより引用)



62口径5インチ砲  
写真：海上自衛隊提供



30mm機関砲



各種ミサイル発射筒  
(写真は12式地对艦誘導弾発射機)  
写真：陸上自衛隊HPより引用

- 防衛関連機器の生産に加え、各種火砲・車両等の整備(オーバーホール・修理)事業も  
広島・室蘭を拠点に実施。

## 防衛関連機器事業の概要：最近の取り組み

### ■ 次期装輪装甲車の生産契約を締結

- 2022年12月9日、96式装輪装甲車の後継にAMVを選定(防衛省)
- 2023年8月31日、Patria社-当社にてライセンス契約を締結



Patria社との契約締結(2023年8月31日)

- 2024年2月、AMV26両の納入契約を締結

⇒ 室蘭にて生産体制を構築、量産・供給していく。



次期装輪装甲車(人員輸送型)のイメージ  
(写真：防衛省HPより引用)

### ■ 将来装備品の研究試作に対応

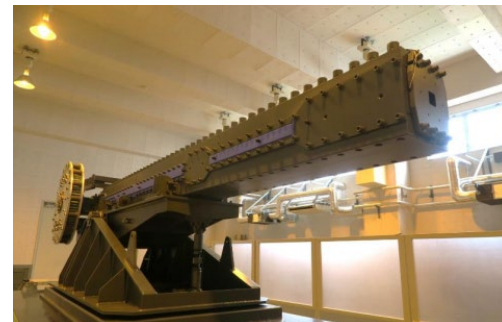
#### 【契約実績】

- 2022年 将来レールガン(その1)の研究試作：約65億円  
将来レールガンのための電源の小型化(その1)：約37億円
- 2023年 将来レールガン(その2)の研究試作：約159億円

#### 【今後の取り組み】

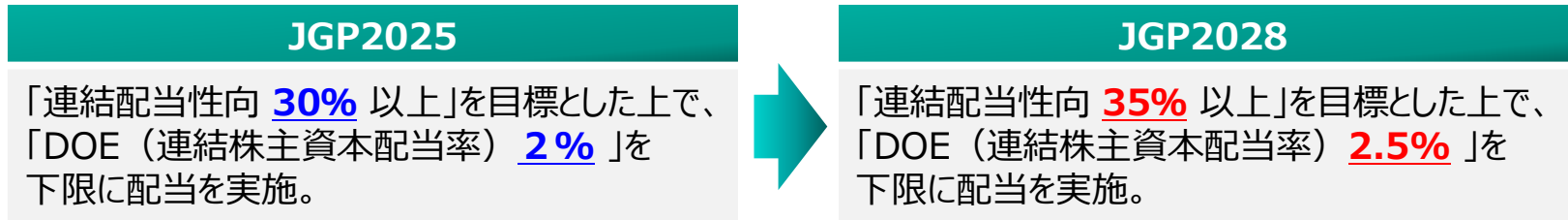
2024年度においても、『将来レールガンの研究(238億円)』が予算計上されるなど、今後とも研究試作は継続。

⇒ 当社の知見・技術を活かし、対応していく。

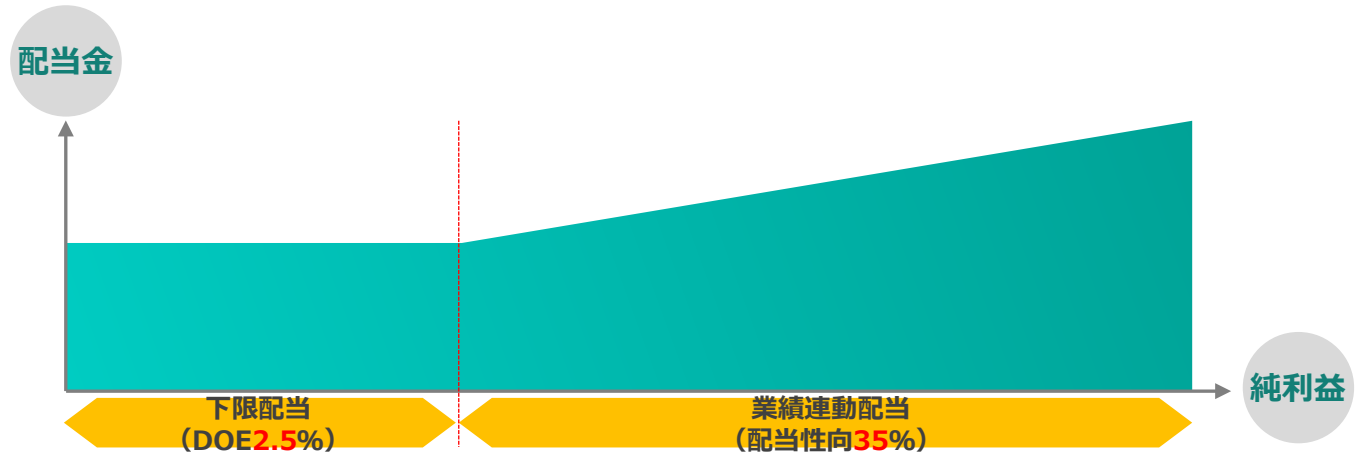


試作レールガン  
(写真：陸上装備研究所HPより引用)

## ■ 新中期経営計画JGP2028 期間中の配当方針



### ■ 配当方針のイメージ



■ 直近の配当実績・予想：24.3期の期末配当は1円増配し30円。（年間配当59円）  
25.3期の年間配当は74円を予想。

	22.3期	23.3期	24.3期	25.3期 (予想)
年間配当金（円）	57.0	58.0	59.0	74.0
配当性向（連結）	30.1%	35.6%	30.4%	35.1%

# 参考資料

# 事業セグメントの構成と主要製品

事業セグメント	産業機械事業			素形材・エンジニアリング事業		その他事業			
事業組織	樹脂機械事業部、成形機事業部、産業機械事業部、特機本部			日本製鋼所M&E		新事業推進本部			
生産拠点	<p>広島                      横浜                      名古屋</p> 			室蘭					
製品	<p><b>【樹脂製造・加工機械】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>造粒機</li> <li>フィルム・シート製造装置</li> <li>二軸混練押出機</li> <li>アフターサービス</li> </ul>  <p><b>【成形機】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プラスチック射出成形機</li> <li>マグネシウム射出成形機</li> <li>中空成形機</li> <li>アフターサービス</li> </ul>  <p><b>【その他産業機械】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>エキシマレーザーアニール(ELA)装置</li> <li>防衛関連機器</li> <li>鉄道製品</li> <li>ホットプレス</li> <li>ラミネータ</li> <li>成膜装置</li> <li>アフターサービス</li> </ul> 			<p><b>【素形材製品】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>原子炉圧力容器部材 (シエル、ヘッド他)</li> <li>蒸気発生器部材</li> <li>ローター軸</li> <li>タービンケーシング</li> <li>金型用鋼</li> <li>製鉄用圧延ロール</li> </ul>  <p><b>【クラッド製品】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>クラッド鋼板</li> </ul>  <p><b>【エンジニアリングサービス】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プラント・インフラ鋼構造物及び工事</li> <li>非破壊検査・分析検査サービス</li> <li>水素蓄圧機・水素吸蔵合金タンク</li> </ul> 		<p><b>【新事業】</b></p> <p>フォトニクス 複合材料 金属材料</p>			
市場	石油化学	産業機械	自動車	IT	防衛	電力・鉄鋼	石油・天然ガス	自然エネルギー	新事業

# 売上高・営業利益・純利益の推移

(単位：億円)

	19.3期	20.3期	21.3期	22.3期	23.3期	24.3期
売上高	2,201	2,175	1,980	2,137	2,387	2,525
産業機械事業	1,736	1,714	1,563	1,711	2,029	2,083
樹脂製造・加工機械	525	613	588	621	922	1,027
成形機	727	653	545	653	658	587
防衛関連機器	-	-	-	-	238	241
その他	204	448	430	437	211	228
FPD装置	164	-	-	-	-	-
連結会社	116	-	-	-	-	-
素形材・エンジニアリング事業	412	428	385	400	339	419
素形材製品（鋳鍛鋼品）	-	196	199	254	249	330
電力・原子力	125	-	-	-	-	-
クラウド鋼板・鋼管	130	128	105	60	-	-
エンジニアリング他	-	104	81	86	90	89
その他	95	-	-	-	-	-
連結会社	62	-	-	-	-	-
その他事業	52	32	31	26	18	22
営業利益	242	187	102	154	138	180
産業機械事業	235	192	139	177	189	204
素形材・エンジニアリング事業	26	27	18	13	△ 8	32
その他事業	3	△ 4	0	0	△ 4	0
純利益	199	93	68	139	119	142

※21.3期より、集計区分を変更（20.3期より組み替えて表示しています）。

- ・「産業機械事業」の「連結会社」としていた3社（ジ-エムエンジニアリング社、ニチユマシナリー社、SM Platek社）を「樹脂製造・加工機械」に変更。
- ・「産業機械事業」の「FPD装置」「その他」「連結会社」を「その他」に変更。
- ・「素形材・エンジニアリング事業」の「鋳鍛鋼品」のうち石油精製用圧力容器と、「その他事業」のうち風力保守業務を、「素形材・エンジニアリング事業」の「エンジニアリング他」に変更。

## 主要な財産状況・キャッシュフロー等の推移

(単位：億円)

	19.3期	20.3期	21.3期	22.3期	23.3期	24.3期
総資産	3,055	2,971	3,162	3,397	3,483	3,667
純資産	1,298	1,324	1,419	1,510	1,606	1,786
1株あたり純資産額（円）	1,746.91	1,778.94	1,908.76	2,031.29	2,162.18	2,404.83
自己資本比率（%）	42.0	44.0	44.4	44.0	45.7	48.3
自己資本利益率（%）	16.3	7.2	5.1	9.6	7.8	8.5
営業活動によるキャッシュフロー	11	189	147	223	△9	217
投資活動によるキャッシュフロー	△13	△131	△32	△29	9	△68
財務活動によるキャッシュフロー	△37	△61	27	△28	△201	△48
現金及び現金同等物の期末残高	738	744	887	1,057	864	969



**JSW Group**

## Purpose (パーパス)

JSWグループはなぜ社会に存在するのか

## Material Revolution<sup>®</sup>

「Material Revolution<sup>®</sup>」の力で世界を持続可能で豊かにする。

## Vision (ビジョン)

JSWグループはどこを目指すのか

社会課題を解決する産業機械と新素材の開発・実装を通じて  
全てのステークホルダーに貢献する。

## Value Creation Process (価値創造プロセス)

Vision (ビジョン) の実現に際し、独自の提供価値をどこに置くのか

JSWグループのコア・コンピタンス

「溶かす」「混ぜる」「固める」技術 **+** 「機械要素技術」「精密制御技術」

これらのコア・コンピタンスをより一層磨き、社会課題を解決する産業機械と新素材を開発・実装する「Value Creation Process (価値創造プロセス)」により、社会価値の創出と持続的な企業価値の向上を同時に実現していきます。

# JSW 日本製鋼所